

三陸の海を放射能から守る
岩手の会

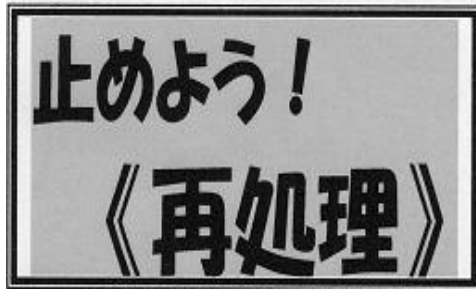
ニニコニ通信 第24号

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag

《まった再処理分庫》



2006 (平成 18) 年

9月 2日

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX

019-623-1636

郵便振替

02240-5-102650

第二ステップ開始に抗議する

説明責任も果たさず、日程優先は許されない



抗議文発表記者会見
岩手県庁

日本原燃(株)は、各地で高まる反対の声を無視して、八月十二日アクティブ試験第二ステップを開始しました。移行期間(ホールドポイント)を除き約二ヶ月半の予定で、およそ六〇トンの使用済み核燃料を硝酸処理してプルトリウムを取り出すとしています。

「三陸の海を放射能から守る岩手の会」は十七日、県庁県政記者クラブ室で記者会見を行い、「第一ステップにおいて多量のトリチウムを海に流し、再処理工場内被曝事故についても説明責任を果たしていない。このままでの、第二ステップ突入は許されない」との抗議文を発表しました。抗議文は、郵送とファックスで日本原燃(株)、原子力安全・保安院、青森県、六ヶ所村に送りました。

せん断開始を示す 主排気筒モニタ

第二ステップ開始を受けて、日本原燃(株)のホームページには、十八日から使用済み核燃料のせん断が開始されたことを示す、モニタの変化があらわれ始めました。

六ヶ所工場の主排気筒の放射能数値(ppm)を示す「A1」というモニタには、十八日午前十一時半から十九日午前一時頃までに六回の波形の山が見られました。これは、一体〇・四六トンの使用済み核燃料が六体、約二・七六トン切断されたことを示します。

西側三六〇メートル地点の

モニターに異常値

このせん断開始のあとに、主排気筒から西に三六〇メートル離れた「Eモニター」(高レベル廃棄物貯蔵管理センターシャフトモニタ)に、午後十一時、十二時にかけて、通常時の二倍弱の放射能値が観測されました。この変化について、青森県内外の市民が日本原燃(株)に電話で問い合わせましたが、担当者は「無風状態のため、主排気筒から出た放射能が貯蔵建屋に浸入したため」と答えたといわれます。

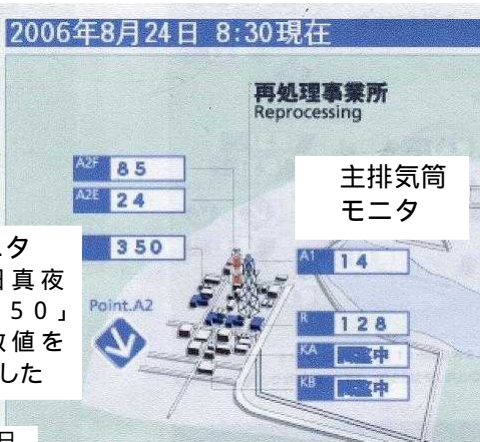
主成分の、重いクリプトンを含む放射性ガスの塊は一五〇メートルの主排気筒(エントツ)から地上にまで降下滞留したことに

なり、原燃の「高空に拡散するから安全」という説明は崩れたことになりました。この異常値のあと、せん断作業は一週間以上停止されている模様です。

トリチウム 四四兆ベクレル 海洋放出 七月定期報告

日本原燃(株)は、八月二十九日のホームページで「六ヶ所再処理工場定期報告書」を発表しました。七月の海洋放出液中のトリチウムは、四四兆ベクレルで、これまでの累計は六七兆ベクレルになりました。

四四兆ベクレルは、六百トンタンク九杯分と推定され、六月までの放出量(二十三兆ベクレル)の約二倍です。経口致死量として計算すると、約一三人分と計算出来ず。



Eモニター
18日真夜中、「750」ほど数値を示しました

日本原燃ホームページ

ここが知りたい！ 六ヶ所再処理工場

いわて生協学習会 8.17 盛岡

いわて生協主催の学習会が、八月十七日、いわて生協ベルフ青山店で行われ、生協組合員を中心に三二名が参加しました。生協として

声を挙げてゆく

まずは、副理事長の佐々木みどりさんが挨拶を行い、その中でいわて生協として日本原燃(株)と若手県知事に要望書を提出したことやアンケートで組合員の不安の声が上がっていることなどを



報告し、今後とも組合員に対して情報提供を行い、生協としての声を上げていくと述べました。その後、講師の永田文夫さんが、英仏の再処理工場周辺で起こっている放射能汚染や六ヶ所でアクティブ試験開始直後から連続して起こっている事故などについて説明しました。

学習や映画上映会を進めたい

参加者の一人、新田文子さん(エコロジーとフ

エアトレードのお店・おいものせなか)は次のような感想を述べました。「会員の多い生協さんがこの問題に積極的に動いてくれることを心強く思います。永田さんのお話はわかりやすく、たくさん資料はとも参考になりました。私も、もっと勉強して私のやっているお店のお客さんにも伝えていき、再処理工場本格稼働をなんとか食い止めたいと意を新たにしました。今後の企画をお知らせ頂ければお店の方でもPR、配布などできますのでよろしくお願いします。」学習会終了後には、映画「六ヶ所村ラブソディ」の上映会

をいわて生協で企画するための話し合いがなされました。

放射能影響調査を岩手県の独自でいわて生協

いわて生協(池田和昌理事長)は、八月一日、佐々木みどり副理事長ら八人が県庁を訪れ、六ヶ所村再処理工場についての要望書を提出しました。

菊池秀一県環境福祉部長に手渡した要望書の内容は、岩手県独自で本県沖の放射能影響調査、監視を行う。第二ステップへの移行は事故原因究明の後に、などでした。菊池部長は、岩手沖までの調査の拡大を国に、説

明責任を果たすよう日本原燃(株)に、求めていると答えました。

種市周辺のコンブを採取し放射能値を調査

岩手県

岩手県は八月二五日、文部科学省の委託事業として、洋野町種市港周辺で採集した海藻の放射能水準を調査し始めました。県環境保健研究センターでは、七月に採取した海底土と海水を放射能水準の調査に回しましたが、さらに、地元漁協が八月二四日に採取した一年もののホソメコンブ五キログラムも購入し分析に着手しました。分析の結果は文部科学省に報告され

ます。岩手のおいしい海産物を守って！

関西の三四団体など大阪・事務所に要望

八月十日大阪市内にある岩手県事務所にて、三陸のおいしい海産物を放射能から守ってください」という署名簿を携えた十五人の市民が訪れました。これらの市民は、関西の消費者団体など三四団体と百四人の賛同者の代表で、「三陸のメカブやさしみワカメはともおいしい。岩手県は、放射能汚染を許さないでほしい」などの要望を岩手県事務所に提出しました。

サマーライブ乗石で再処理パネル展示 岩手の会

8月6日カンカン照りの強い陽射しのもと、サマーライブ・コンサート乗石が、役場隣接の広場で開催されました。若手ミュージシャンの熱演が続き、フリーマーケット、手作り手ぬぐいコンテストなどが行われました。「岩手の会」は「六ヶ所再処理で海を汚さないで！」のライブメッセージを届けるため、テント展示会を開催しました。



六ヶ所再処理工場は岩手に何をもたらすのか

京都大学原子炉実験所

小出裕章さん講演会

時 九月三〇日(土) 十三時半~十六時

所 盛岡市勤労福祉会館大ホール

(紺屋町・東北電力向かい)

主催 講演会開催百人委員会

豊富な放射能測定研究に裏付けられた体内被曝のメカニズムを知る第一人者、小出裕章先生は「プルトニウムは微量でも危険」と警告しています。

三陸の海に放射能が流された場合、如何なる影響を受けるのか、岩手県民の疑問に答える講演会です。